

事務事業マネジメントシート(平成30年度実績と平成31年度計画)

令和元年 7月17日 更新

事務事業名		ボランティア表彰事業					☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	1	自治の健康				所属部	総務部	課長名	大茂 竜二	
	施策	1	市民参画によるまちづくりの推進				所属課	企画課	担当者名	井芹 和幸	
	施策の柱	1	地域づくり(まちづくり)人材の育成				所属班	企画広報班	(内線)	1256	
予算科目		会計一般	款2	項1	目13	事業連番11542	根拠法令	合志市ボランティア表彰実施要綱			
終了、開始年度		☐ 30年度で終了 ☐ 30年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 23 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	市長マニフェスト項目として事業を企画した。平成23年10月19日に合志市ボランティア表彰実施要綱を制定した。ボランティア活動を通じて社会に貢献されている個人や団体の更なる活躍を期待し、感謝の気持ちを表すとともに、広く市民へボランティア活動の輪を広げていくことを目的として、熊本県ボランティア月間である11月に、年1回の表彰を行なう事業である。被表彰者は、市内の各種団体の長(区長、社協、ボラ連)または市の部局長に被表彰者の推薦を依頼し、推薦された候補者を書類審査により決定し、ボランティア表彰登録名簿に登録する。平成23年度は市ボランティア連絡協議会に推薦を依頼し、市社会福祉協議会主催の「ふれあいフェスティバル2011」におけるイベントとして合併50周年の節目の年に第1回表彰式を実施した。平成24年度以降は、表彰式に合わせボランティア実践している団体等の事例発表を行ない、合志市文化会館で表彰式を実施している。平成27年度は合併10周年記念事業として「合志市秋まつり」内で行った。平成28年度は、熊本地震により例年開催しているウィーブルの被災により、ふれあい館でふれあいフェスティバル2016と合同開催とした。また、菊池恵楓園盲人会からの推薦があり、被推薦者が大阪在住のため、別に感謝状贈呈式を行った。
【業務の流れ】	例年、各区(自治会)、企業連、市内小中学校、民生委員・児童委員、市ボランティア連絡協議会などから推薦された個人や団体に対し、感謝状を授与する。表彰対象者は個人、団体ともに限定しないが、状況に応じて限定する必要がある場合は、合志市総合政策審議会へ諮問し、選考を行うこととしているが、平成29年度は、ふれあいフェスティバル2017との合同開催のため、時間が制限されることが想定されたことから、各区(自治会)、市ボランティア連絡協議会、市社会福祉協議会からの推薦としたが、19組の推薦があった。
【主な予算費目】	需用費
【意見や要望】	平成24年度、環境衛生課から、市として環境美化委員の表彰を行ないたいと検討していたところであり、企画課のボランティア表彰式で長年環境美化委員としてがんばってくれた市民を表彰してほしいとの打診があり、推薦された該当者を表彰した。平成27年度は、県のボランティア大会と期日が重複したため、開催期日の決定の際は注意するよう参加者からの意見があった。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 30年度実績(30年度に行った主な活動) (DO)		31年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
平成30年11月18日、ふれあい館で「ふれあいフェスティバル2018」合同で第8回表彰式を実施した。(個人:5人 団体:3団体)		表彰式の実施	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア: 個人表彰	人	消耗品(額縁)の減	
イ: 団体表彰	団体		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
ボランティア活動を行っている個人と団体	人	→ ア: ボランティア活動を行っている個人(社協ボランティアセンター登録数)	
	団体	→ イ: ボランティア活動を行っている団体(社協ボランティアセンター登録数)	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
感謝の気持ちを表すことで市民にボランティア活動を広げる	人	→ ア: ボランティア年間活動延べ人数(個人)(社協ボランティアセンター実績)	
	人	→ イ: ボランティア年間活動延べ人数(団体)(社協ボランティアセンター実績)	
*③成果指標設定の理由と31年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
社協主催の「ふれあいフェスティバル2018」の中で実施し、日程を考慮し平成29年度は平成28年度実績程度と設定した。			全体計画
			～ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費 の推移		単位	28年度 実績(決算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	2年度 予定	3年度 見込	4年度 見込	
① 活動指標	人	5	9	10	5	10	10	10	10		
	団体	15	2	5	3	5	5	5	0		
② 対象指標	人	84	75	125	83	130	135	140	140		
	団体	92	89	105	88	110	115	120	125		
③ 成果指標	人	1,869	1,900	2,000	1,280	2,000	2,000	2,000	2,000		
	人	17,195	17,000	10,000	17,000	10,000	10,000	10,000	10,000		
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	28	10	53	35	43	30	30	30
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	28	10	53	35	43	30	30	30
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		人件 費	正規職員従事人数	人	4	4	10	4	10	10	10
	延べ業務時間		時間	125	175	100	280	100	100	100	100
	(B)人件費計		千円	0	692	398	1,103	398	398	398	398
トータルコスト(A)+(B)		千円	28	702	451	1,138	441	428	428	428	

事務事業名	ボランティア表彰事業	所属部	総務部	所属課	企画課
-------	------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（CHECK）

*原則は30年度の事後評価、ただし複数年度事業は30年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①30年度目標達成度評価	☒ 達成した 達成した。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②31年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 区長をはじめ多く依頼を行うことで、目標達成を図る。	☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ボランティア表彰を行なっていくことで、市民にボランティア活動の輪が広がっていくことになり、ボランティア活動が促進される。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 必要最小限の予算であり、削減の余地はない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 最小限の人数で可能な限り効率的な業務を行っている。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ボランティア活動を行っている市民全員が対象であり、公平である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 役割分担は適さない。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（CHECK）

ボランティア活動されている多く個人、団体の推薦があり、推薦者の頭打ちのため、今後の推薦者が減少することが考えられるが、多くのボランティアの表彰ができ、気運の向上が図られたことにより、新しいボランティアが誕生していると考えられる。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								